

広州日本人学校ならではの風景 **～先輩として下級生に送られ、新入生として先輩と語る～**

広州日本人学校は、小学生と中学生が共に成長する学び舎です。音楽発表会や運動会等の学校行事はもちろんのこと、日々の授業等における交流も活発です。

また、小学生と中学生が互いの姿を見て学ぶ場面も大変多いです。小学生は、中学生の姿を見ながら将来の自分の姿を想像し、中学生を一つの目標としながら生活します。中学生は、小学生の元気な挨拶や素直な態度を見ることで、心身ともに成長しながらも、礼儀・思いやり・優しさ・感謝等を忘れずにいることの大切さを学びます。

広州日本人学校だからこそ見られる象徴的な風景を、2月に見ることができます。それは、「小6を送る会」で先輩として下級生に見送られた小学6年生が、数日後には、新入生として中学1年生と交流する「中1と語る会」に参加する風景です。

日本で生活する中で、小学校を卒業し、中学校に入学する場合、何かが一度終わり、新しい何かが始まるというイメージが強いと思います。しかし、義務教育という観点から考えても、人が学ぶということから考えても、何かが終わるわけでも、急に新しい何かが始まるわけでもありません。小学校生活6年間に対する区切りは必要です。しかし、その上にこれからも積み重ね続けていくことでこそ、人生は豊かになっていくのです。そして、どんな環境であったとしても、その積み重ねを楽しむ力が「人生100年時代」を有意義に生きていくためには欠かせません。そんなメッセージがこの広州日本人学校の2月の風景には表れているのだと思います。

今年度、本校は開校30周年を迎えました。4月からは31年目の歩みが始まりますが、2月の風景にあったように、引き続き多くの方々のご協力を賜りながら、これまでの歴史の上に、一つ一つ丁寧に積み重ねてまいります。

